

介護保険制度は導入されたが…

やはり経済的負担に関する不安は大きい

公的介護保険制度は、平成9年12月に介護保険法が成立し、平成12年4月から施行されました。

導入にあたっては、

- 高齢化の進展に伴う要介護高齢者の増加や介護期間の長期化など、介護ニーズはますます増大
- 核家族化の進行・介護する家族の高齢化など、要介護高齢者を支えてきた家族をめぐる状況も変化

などを背景に、従来の老人福祉・老人医療制度による対応には限界があり、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みとして介護保険制度が創設されました。

介護保険制度は導入後も3年ごとに、第1号保険料の見直しや介護報酬の改定などが行われていますが、介護保険制度が始まったことで介護の状況は良くなったと感じているのでしょうか？

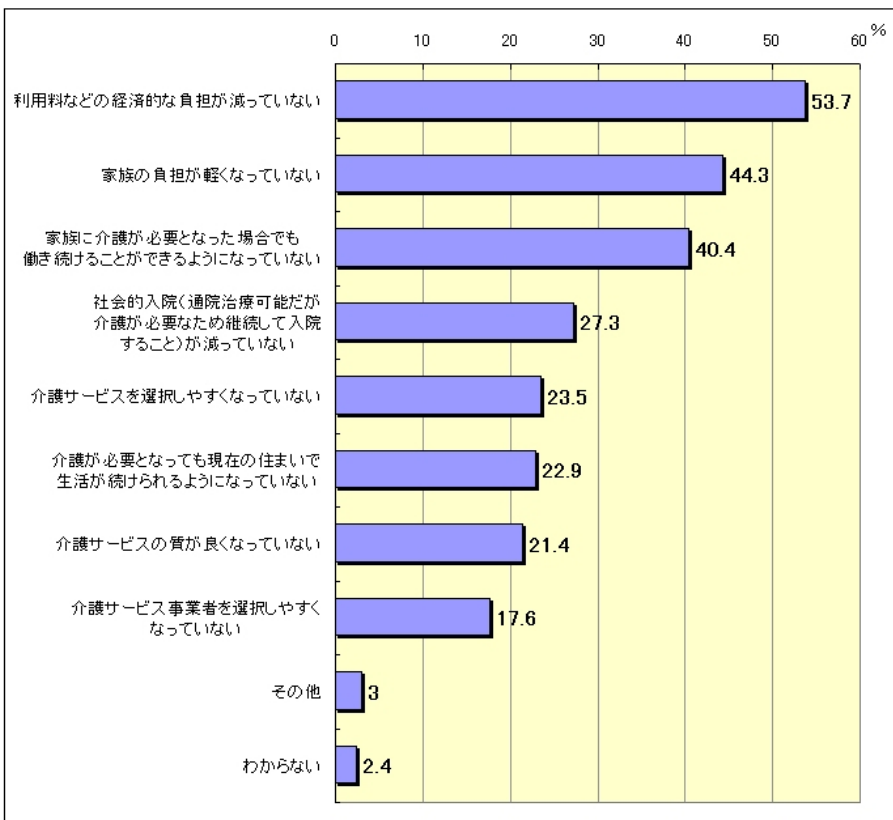
内閣府の「介護保険制度の関する世論調査」（平成22年9月調査）によると、「良くなったと思う」人の割合が51.3%（「良くなった」13.1% + 「どちらかといえば良くなった」38.2%）、「良くなったとは思わない」人の割合が28.8%（「どちらかといえば良くなったとは思わない」17.2% + 「良くなったとは思わない」11.6%）となっています。

「良くなったと思う」（「どちらかといえば……」を含む）と答えた人に、良くなったと思われることを聞くと、「家族の負担が軽くなった」54.8%、「介護サービスを選択しやすくなった」が50.2%と高くなっています（複数回答）。

逆に、「良くなったとは思わない」と答えた人（「どちらかといえば……」を含む）に、制度導入後も良くなっていない点について聞くと、「利用料などの経済的負担が減っていない」が53.7%と最も高く、以下、「家族の負担が軽くなっていない」（44.3%）、「家族に介護が必要となった場合でも働き続けることができるようになっていない」（40.4%）などの順となっています。

このような意見を参考にして、平成24年4月から改正が実施されていますが、やはり十分な介護を行うためには私的準備が必要ですね。

介護保険制度導入後も良くなっていない点（複数回答）



内閣府「介護保険制度に関する世論調査」（平成22年9月調査）